

日本人の、日本人による、日本人のため にならない捏造：I

40年以上前のこと、題名は忘れたが、桂米朝さんと最近亡くなられた小松左京さん、アシスタントの女の子がひとり。3人で、投稿者の葉書や手紙を紹介するラジオ番組があった。当時の投稿者のレベルは高く、思わず吹き出してしまうことがよくあった。常連の頭脳明晰な男の傑作をひとつ。「日本人の、日本人による、アメリカのための政治」。3人とも吹き出し、ボクも思わず笑ったのであるが、表題はこの箴言をもじって使わせてもらった。

かなり前のことだが、田辺敏雄氏の「検証 旧日本軍の『悪行』」を読んでいた。中国やニューギニア、ハイラル、ベトナムにおける日本軍の悪行を検証する、と謳った本である。すでにおわかりのようにほとんどすべてを御注進新聞である朝日新聞が演出しているが、ベトナムのは毎日新聞だ。ここで、今、原発事故関連のコラムで被災者から嫌われている高山正之氏のコラムを読んで大笑いした、という話である。

安倍さんが1回目の首相になったとき、「戦後レジームの見直し」を言った。つまり、東京裁判史観に始まる朝日新聞などの捏造をひっくり返す、と同義語になる。朝日が安倍さんたち閣僚の粗捜しに躍起になって攻撃した。2回目の首相になったら、一部の国が歴史認識を改めろ、と騒ぐけれども、両者立会いの下に「検証」していけば、困るのは自分たちになりませんか？ と考えているところである。そもそも「日本軍の蛮行」については、一切の検証が行われていない。

つまりは、何もないところから日本人が火をつけ、これを煽り、村山トン吉程度の理解力で、謝罪行脚をくりかえす。謝ったら、必ず賠償がいる、ということさえ知らない。

ボクは、昭和30年代に、小・中・高校生だったが、南京大虐殺の話など習った記憶がない。同世代の人に尋ねても、みな知らない、と言う。ましてや、日本語にない「三光作戦」にいたっては、荒唐無稽とまで思っている。ボクの知る三光とは、花札の松桐坊主くらいである。松桐坊主、桜で四光のことだ。

日本の大学教授は暇なのか、あちこちの国に行っては先入観をもって日本軍の悪行をさがしまわっている。台湾でもそうだし、マレーシアでもそう。あのねえ。どこの国にも変なのはいる。ぜんぜん何も悪いことはしなかった聖人君子ばかりだったなどという気はないが、ありえないことはありえないのです。

まず近いところからいけば、台湾である。台湾の日本による統治は、明治時代の半ばからである。台湾では内省人と外省人に分ける。内省人は、いわば土着の民族で、有名なのが高砂族である。統治すなわち植民地＝愚民政策・搾取と考えるのが普通らしいが、日本のおこなったのは「併合」である。(併合と植民地化とは異なる。)そして鉄道の建設、道路の整備、電力供給、学校建設すなわち教育の充実、識字率を高め、日本語を強制したりなどはしない。台湾に行くとき親日家が大勢いて、明石元二郎総督や八田與一のダム建設など、いまでも語り草になっている。歴代の総督には、乃木希典、児玉源太郎らがいる。七代目の明石元二郎がいる。日露戦争が身近に感じられる。明石元二郎はドイツ皇帝をして、「明石ひとりで、大山巖率いる20万人の日本軍に匹敵する戦果が挙げられた」と言わしめた。ロシア革命の隠れたヒーローである。明石は原住民からずいぶんと慕われ分骨して墓地が台湾にある。のちの東京市長の後藤新平は児玉にひっぱられて内政に手腕を発揮した。大東亜戦争では、特攻隊に馳せ参じたものもいるし、ニューギニア戦線などでも、高砂義勇隊が何千人も参加し、彼らは、勇敢だし、夜目がきくし、食べ物を入手する能力も高く、日本軍は大いに助けられた。世界最強の日本軍が、驚くほどの活躍をし、世界最強だろうと呼ばれた。NHKの特番で、彼らがいかに日本軍によって虐待され、差別をうけてきたかを報道する。さすがに、当の出演者までもが怒り出し、日本人とともに1万人の大訴訟になった。中国や韓国が騒いでいるのと同じだろうという先入観で取材するから恥をかく。こんなのに受信料を払いますか？ **ボクは嫌だ！**

台湾統治＝植民地統治＝愚民政策＝反日感情

＝虐殺・略奪＝反日感情 がNHKの考えた図式である。豈図らんや、まったくの見当違いで、朝日新聞と同じ轍を踏んだだけのこと。

台湾では2.28事件があり、これは起こるべくして発生した民衆の反乱。蒋介石軍(国民党)の憲兵隊が丸腰の民衆に向かっての機銃掃射。蒋介石は、「格殺勿論、100人の無辜を殺しても1人の共匪を逃がすな！」と打電した。そして、医師、弁護士、学者、教師などいわゆる知識層を処刑するが、その数は3万人とも5万人ともいわれる。要するに、「虐殺の本場」から逃れてきた連中による虐殺だっただけのことで、日本軍が関与するはずがない。だから彼らは外省人と呼ばれている。彼らは、数千年昔から大陸で、村人でもあり、軍人でもありだった。軍人とはいいいながら、日本軍のような制服を着用しているでなし、略奪、凌辱、殺人とあらゆる悪事を働いてきた。

マレーシア（当時マラヤ）でも「日本軍による虐殺があったはずだ」と嗅ぎまわった教授や学校の教師もいたが、「日本軍はマレー人をひとりも殺さなかった。殺したのは、戦闘で戦ったイギリス人とそれに協力した華僑だけだ」と聞いてがっかりして帰ったという。

これらの教授たちに共通しているのは、南京大虐殺やベトナムの200万人餓死のようなセンセーショナルな大ヒットを狙っていたにすぎない。思惑が外れるも何も、初めからないものはないのである。

マレー人は、100年間支配されていたイギリス人を駆逐してくれた日本人には感謝の気持ちでいっぱい、「解放者」として歓迎した。マレーシア人が言う。われわれが学んだのは、日本軍の規律のよさ。それまで白人というのは、神のように高い存在だったのが、同じアジア人に敗れて逃げていくのを見て、独立を考えた。そして日本の進撃に際しては道案内をしたり自転車を提供したり、いろんな形で援助してくれた。

マレー沖海戦では、高速航行中の新鋭のイギリス戦艦プリンス・オブ・ウェールズとレバルスの2隻が、海軍航空隊によって撃沈された。航空機だけでの撃沈は世界初の快挙である。チャーチルがずいぶん落ち込んだという。2隻を救助にきた駆逐艦に対し、海軍は「ワレノ任務ハ完了セリ。救助活動ヲ続行サレタシ！」と打電した。つまり、救助活動の邪魔はしない、殺戮が目的ではないことを示した。

このときの日本陸軍の司令官が山下奉文中将で、イギリス軍はパーシバル中将である。ジットラ・ラインを作り、(高さ5メートルに及ぶ)パーシバルは日本軍の進撃を3ヶ月は遅れさせるだろうといい、イギリス兵1人で日本兵1ダースに匹敵する、と豪語していたが、あっという間にシンガポールまで陥落させられた。有名なyesかnoか!問答で、パーシバルは帰国後つるし上げられたが、「**日本兵は13人来たのだ**」で助かった。

以上も以下の話も、ほとんど高山正之氏や田辺敏雄氏の著書からの無断引用です。

ベトナムの話の前に、**インドネシア**の話。インドネシアは100年間オランダの植民地で、ご主人様の「ビンタにおびえながら働かされ、食事がきちんと与えられる刑務所の方がましとさえ考えていた」(R.カウスブロック)その地で日本軍はあっという間にご主人様をやっつけてみせた。8万2000人の連合軍がこもるバンドン要塞はた

った 3000 人の日本軍の前に降参した。そもそも日本はオランダに宣戦布告をしたわけではないのに、英米と戦争になると勝手に宣戦布告してきたものである。スマトラでは地元住民 10 数万人を強制労働に駆り立て地下に要塞を作ったが、その後秘密を守るために全員を殺した、と早大の後藤教授が新聞に掲載したが、まったくの捏造だったことがわかっている。これに便乗する女性教授もいて、嘘がひとり歩きしている。……バカばかり。

日本が敗れて消えた後、戻ってきた（普通、のこのこと戻ってくるかあ？ 何年か前に謝罪したようだが。）オランダと人々は戦った。4 年間で 80 万人が殺されながら、戦いを放棄しなかった。そして独立を得た。この独立戦争には、旧日本軍兵士も少なくとも 3000 人が参加している。

日の丸をめぐって「日本に侵略された東南アジアの国々の人々はどう思うだろう」といった否定的論調が国会や新聞で目に付く。

この文章には誤りがある。当時は「国々」などアジアにはなかった。あったのは、欧米諸国の植民地だけで、(中略)……いつときのアフリカみたいなもんですな。

どうしても「現地の人々が日の丸をうらんでいる」風にしたいらしいが、歴史はむしろ「日本の侵略」で、人々が宗主国（イギリス、フランス、オランダ）と戦う自信を得ていったように見える。

……だから、村山トン吉が、マハティールに窘められたのか！

ベトナム 200 万人餓死事件

日本軍が占領していた 4 年間に 200 万人のベトナム人が餓死したという話である。えらい大きな数字だから、みな驚く。ベトナムは長くフランスの植民地で、仏印と称した。

200 万人の餓死事件というのは、1945 年 9 月、ホー・チ・ミン臨時政府主席がハノイのバーディン広場を埋めつくした群衆の前で読み上げた「ベトナム民主共和国独立宣言」の一節である。

「1940 年秋、日本ファシストが連合国攻撃のための基地を拡大しようとインドシナに侵略すると、フランス植民地主義者は膝を屈して降伏し、わが国の門戸を開いて日本を引き入れた。このときからわが人民はフランスと日本の二重のくびきのもとに置かれた。このときから、わが人民はますます苦しくなり、貧窮化した。その結果、昨

年すえから今年はじめにかけて、クワンチからバックボにいたるまで 200 万人以上の同胞が餓死した。」

これに何人かの日本人が賛同し、ここでも日本軍は蛮行をおこなったと述べている。

検証すると、日本軍が南部仏印に進出するのは 1941 年 7 月。日本は仏印に航空基地・港湾施設の確保などが必要となり（援蔣ルートをつぶすため）、日・仏印共同防衛議定書の調印に持ち込んだ。したがって、日本軍は占領軍ではなく、駐留軍として進出した。居候のようなものだから、当然ながら住民に直接命令したり、強制することもなかった。

ハノイを含むトンキン平野は洪水にあうことが多く、南北縦貫鉄道によって南部のコメどころから送られてくるコメに頼っていた。1943 年末から米軍機が飛来し、日本軍の兵器などの輸送を断つ目的で鉄橋の爆破を狙いとした。このため食糧輸送が途絶え、北部住民に食糧難をもたらした。

ある人の計算によると、毎日新聞の報道では、ベトナム人の米や粳を奪って焼いたなどを書く。その量まで書いてあるらしいが、そのとおりに受け止めれば日本軍が必要とする米の 500 年分以上にあたる米を徴用したことになる。しかし日本軍の食糧事情もよくなく、コーリャンなどの雑穀を混ぜて食べていたというぜ。だから「嘘」なのだ。

少し重複するが、以下、高山氏の文章を引用する。・・・・・・1940 年（昭和 15 年）、パリがナチスドイツに占領され、ドゴールは英国で亡命政権を維持していた。そこにナチスの傀儡であるヴィシー政権ができた。この年は、蒋介石が、米英の 4 つの援蔣ルートを使って武器や食糧を提供してもらっていた。その援蔣ルートのひとつをつぶそうと、ベトナムに侵攻した。ドンダン要塞に籠もる仏軍は、日本の数倍の兵力があったが、隊長が殺され、戦意喪失して、最終的にはフランスの植民地のまま、日本が自由に通行できるようになった。

ハノイの中心街に元フランス植民地政府の徴税局がある。

「よくもここまで思いついた」（A. ビオレス「インドシナ SOS」）さまざまな税金や（フランスでは禁止されている）アヘンの売り上げがここでまとめられ、本国に送金されていた。（註；税金とは、本国にはない人頭税、結婚税、出産税など。逆らえば投獄し、死んだら葬式税まで徴収したという）

そこは今、「革命博物館」に装いを変え、「植民地支配にもっとも効果的だった」（同）

ギロチンや拷問道具、ベトナム戦争時代のボール爆弾など百年に及ぶ戦いの記録が展示されている。

(中略) その中に「日本軍との戦い」と書かれた部屋があった。

「日本軍のため、ハノイでは200万人が餓死したり殺されたりした」と説明書きがあつて、山積みになされた骸骨の写真がかかっていた。(中略)

「そう、日本軍は4年間の統治の間に、燃料が不足したとってはコメのモミを徴発して燃やしたりして飢餓をもたらした」とベトナム研究で知られる明治学院大学の教授はいう。「日本はここでも残虐行為をしていた」と。

でも素朴な疑問がある。日本軍がベトナムを支配したのは昭和20年3月、クーデターを起こして仏植民地軍を追っ払ってから終戦までの5ヶ月間、どうやればそんな短期間に200万人を餓死させられたのか。

「へっ」と教授。「日本の支配って5ヶ月間なの？」(註：これが、田辺敏雄さんが大笑いした理由である。ワタシも笑ってしまいました。この程度の輩が、日本におけるベトナム学の大家と呼ばれているのです。)

200万人餓死事件につき、ハノイの人民委員会幹部はあっさり「政治的宣伝だった」と認める。「あの当時、ハノイ大洪水と旱魃に交互に見舞われ、多くの餓死者がでた。それと時期的に合うので日本軍と結び付けた。ただ、南の穀倉地帯との鉄道が連合国軍の爆撃で途絶えがちだったことも確かで、だから日本にも50万、いや5万ぐらいの責任はあつたはず」(えらい値切りようやなあ。しかし、それなら連合国に大半の責任があるんじゃないか。)

ハノイ高射砲部隊兵長、落合茂氏はこの飢餓の中、「日本軍は仏植民地政府から食糧を買い、われわれが街角で炊き出しをして市民に配ったものです」と語っているし、ハノイの雑貨店マゾワイエの持ち主はフランス人だったが、奥さんが日本人で、飢えた市民のために炊き出しをしていた。のちに市民は暴徒化して食糧を求めてあちこちの店を襲うのだが、マゾワイエには手をださなかったという。

ベトナムは、今中国との間で、西沙諸島の帰属について係争中である。日本にも助けを求めているのだが、それなら、まず「日本軍との戦い」の部屋を片付けてからにするべきだろう。

(ちなみに、援蒋ルートを求めて米英がチベットに打診したところ、ダライ・ラマに見事にことわられてしまった。いわば、チベットは日本にとっては恩人でもある。

この国の独立に対して日本も何かするべきだろう。「中国はいかにしてチベットを侵略したか」「チベット大虐殺と朝日新聞：朝日新聞はチベット問題をいかに報道してきたか」などといった本が書かれるくらいである。中国の御用新聞など読む気にもならない。))

ベトナムと日本の関係は 100 年以上におよぶ。

日露戦争当時に、仏印からベトナムの国士、潘佩珠（ファン・ポイ・チャウ）が密航してきた。フランスから独立する手立てを探しに来た。中国から亡命していた梁啓超が「日本に若者を留学させろ。日本人は支援してくれる」と忠告する。

あたかも日本海海戦の勝利が伝えられた時期だ。潘は感激して「東風一陣、人をして爽快たらしめ・・・」と記録。そして梁の言葉通り、大隈重信や宮崎滔天など意気を感じた民間人が支援を申し出て、12 歳の少年から安南王朝の王子クオンデまで約 300 人が日本に密航して多くを学んだ。20 世紀初頭これほどの人々が日本を頼り、そして日本が惜しみなく受け入れた。意味は大きい。(孫文も日本の援助を受けたが、事が済めばコロッと忘れる稀有の人物である。中国人だからなのか。念のため、中国で仕事をしている人に聞いた話だが、中国語には「優しい」とか「親切」の類の表現はない、と言う。))

しかしルーズベルトの画策で一銭の賠償金も取れなかった日本は深刻な財政危機に直面し、フランスに 3 億フランの借款を頼む。

フランスは、潘以下の反仏ベトナム人を引き渡せと条件をつける。

日本政府は手を尽くしてベトナム留学生のすべてを逃がしてやった。当時上海総領事の松岡洋右は仏官憲の目を欺いて、王子クオンデを古河鋳業支社に匿わせている。もしばれば、借款どころか日仏国交断絶にもなりかねない措置だった。

留学生たちは、その後祖国で抵抗運動を続け、「東京義塾」も開かれた。

北部仏印進駐のおり、道案内に立った陳中立もその流れを汲むひとりだった。

日本留学運動——すなわち東遊運動と称す。

服部則夫駐ベトナム大使が潘佩珠像の除幕式で挨拶して「日本政府は（東遊）運動を弾圧し独立を願う叫びに応えられなかった。百年前の借りを今、最大の援助国として返している」とやった。・・・何を言っとるんだ、このバカは。

この記事は、さらに、潘が上海でのちに仏政府に逮捕されるが、「彼の思いはホー・

チ・ミンに受け継がれた」と書く。潘はホーの密告で捕まったのは、公然の事実だ。さらにさらに日本が東遊運動を弾圧し、ベトナムをはじめ、アジア各地を侵略した、と続く。・・・・・・・・(やっぱり朝日新聞や。)

ベトナムは、昭和 20 年 3 月まで仏が支配し、だから潘が日本に援助を頼んだ。この 3 月に仏軍を追い払い、安南王朝を据えた。それを米軍に支援されたホーが潰したのだろうか。

周りのマレーもビルマもみな欧米に侵略され、支配されていたのではなかったのか。

だからあ。もう日本が侵略した、などというのは間違った解釈なんだって。捏造はもういい加減にやめようよ。見苦しい。自虐史観から、異なる目で物事を見てみたら？

2014. 06. 04.